

緑化だより

No.96 平成26年7月号



スギゴケ

- 緑化センターの希少な樹木(4)
- 野鳥の世界(ヨ タ カ)
- 植物 Q&A
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



緑化センターの希少な樹木

No.4 ムクロジとエンジュ

今月は、石鹼の代用になる植物を2種紹介します。

ムクロジは、6~7月粟粒のように細かい花が多数つきます。果皮はサポニンを含んでいてよく泡立つことから昔は洗濯や洗髪に広く使われました。平安時代の公家屋敷に多く植えられたようです。種子は羽根つきの玉や数珠になります。名前の由来は、同じムクロジ科のモクゲンジの中国名「木欒子」を、誤ってムクロジにあてたため、木欒子の日本語読み「モクロシ」が転じてムクロジになったという説があります。センター池横や見本園に数本あります。

エンジュは、7~8月に黄白色の花を咲かせます。その後、数珠状の変った形の果実をつけます。完熟したさやを水の中でもむと泡が立ち、石鹼の代用になるそうです。あまり成長の速い木ではありませんが、生育地を選ばず寿命の長い植物ですので記念植樹には好適な植物といえます。名前の由来は、種子を槐子(エス)と呼んでいたのがエニスとなり、さらに転訛してエンジュとなったと言われています。薬草園の下に1本あります。(川上)



ムクロジの実



エンジュの実

野鳥の世界

ヨタカ

ヨタカと呼ばれる野鳥が存在することも近頃では忘れられているようですが、梅雨の頃に渡来して、陽が落ちて暗くなると採食活動を始め、闇の中の野鳥です。そのため「夜の鷹」と名付けられていますがタカの仲間ではありません。ヨタカ科ヨタカ。特徴は鳴き声で、「キョ、キョ、キョ」と区切って鳴き続けること。何処で息をついているのかと思うほど続けて鳴きます。

その声を夜明けに聞いたお嫁さんが、姑が早く起きてまな板で野菜をきざむ音に聞こえ慌てたという説話があります。

夜間、闇の中をヒラヒラとゆっくり飛びながら昆虫などの小虫を食べます。クチバシはツバメ形で大口、鳥にしては長いヒゲが伸びています。飛んでいる小虫を捕食するのに都合がよいのでしょう。

昼間は、大きな木の横枝にうずくまるようにとまり、遠くからは虫こぶのように見えます。営巣する時は、近づいても動かず大きな口を開けて反応します。普通では夜の鳴き声でしか確認できない珍鳥です。(吉見)



地上で休むヨタカ

植物 Q&A

農薬だけに頼らない・・・

緑化センターのシンボルツリーとされる県下最大級のオオモミジが管理事務所前に1本と、これに次いで大きなオオモミジが4本あります。そのうちの1本が、シーズンでもないのに、葉色が赤くなり始め樹勢が悪くなってきました。調べてみると蟻がたくさん見られ、一部に蟻がかじった粉が見えました。木酢の50倍液を幹にまんべんなくかけたところ、たくさんいた蟻の姿がすっかり見えなくなりました。葉は元のとおり生氣を取り戻し、樹勢が回復しました。



テッポウムシによる穿孔

薄い木酢液、竹酢液、食酢液いずれも幹肌にかけることにより、蟻に限らず、ベト病やウドンコ病予防など広範囲の虫や病気の予防につながるようです。農薬でうまくいかない時に試してみる価値はあります。

クロマツの葉の一部が赤くなって、枯れてくるといった状況を相談されました。調べてみると赤班葉枯病でした。褐班葉枯病、黒班葉枯病なども有機銅剤で予防除去しますが、木酢でも効果が認められます。

高温乾燥の時期、マツなどでハダニによる害もよく発生します。ハダニ専用の薬がありますが、耐性ができやすく、最初は効いたが二度目はまったく効果がないという相談も頂きます。この時は、まず水で洗い流すことをお勧めしています。ハダニは流れる水に弱いので雨の多い年は発生が少なく晴天続きの年によく発生します。

農薬を使う場合でも、尿酸を1000倍程度に薄めたものを混入することにより、効き目がぐっと良くなります。おそらく窒素肥料である尿素が薬剤を連れて入るようです。

藤のコブ病も尿素を溶いた液を塗ることで防げた報告があります。苦土石灰、牛乳、納豆等も土壌改良や害虫退治に利用することがあります。(正本)

友の会会員研修会報告

5月30日(金)に「新緑の自然観察会」が行われました。友の会限定の初めての研修会です。当初どんな研修会ならたくさん来ていただけるだろうかと迷いましたが、緑化センターらしい自然探勝(自然観察会)を企画しました。この時期にしては暑い日でしたが31名の参加がありました。ユリノキの花が間近で観察できたり、可憐なササユリも見ることができ感激された方も多かったです。その後観察会を早めに終え、短い時間でしたが学習室で自己紹介などで懇親の場をもつことができました。普段では味わえない友の会会員の研修会でした。(川上)



研修会のご案内

- 7月6日(日) 『7月の自然探勝』 10:00~12:00 管理事務所前 集合
アカマツの栄枯盛衰 アカマツは復活するだろうか?
講師: 環境省希少野生動植物種保存推進員 吉野 由紀夫
- 7月12日(土) 『ボタニカルアート教室』 10:00~12:00 学習室 集合
植物を描くコツを学びましょう
講師: 広島ボタニカルアート・ソサイエティ 会員
※鉛筆、色鉛筆、消しゴム持参
- 7月13日(日) 『夏のきのこ教室』 10:00~14:00 第3駐車場 集合
梅雨明け後の野生きのこを観察しよう
講師: きのこアドバイザー 川上 嘉章
※ 採集用カゴ持参
- 7月20日(日) 『夏休み昆虫教室』 10:00~12:00 学習室 集合
講師と一緒に昆虫採集します
講師: 技術士(環境部門) 亀山 剛
※ 要予約(先着40名) 採集用具持参 無料
(定員に達したため締め切りました。)
- 7月27日(日) 『昆虫標本作り入門』 10:00~12:00 学習室 集合
昆虫標本作りを学びましょう
講師: 技術士(森林部門) 相良 伊知郎
※ 要予約(先着20名) 材料費1,000円

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ

展示場所: レストハウス

フランス刺繍作品展

~7月13日(日)

広島ボタニカルアート

ソサイエティ作品展

~7月20日(日)

竹細工「竹生庵」作品展

7月16日(水) ~ 8月24日(日)

日本画「遊」作品展

7月23日(水) ~ 8月24日(日)



広島ボタニカルアートソサイエティ作品展より

表紙 : スギゴケ

7月の土・日・祝日は5時まで開園